

## 今更聞けない仏事の話 (2)

皆さまはお変わりなくお過ごしでしょうか？猛暑の続いた8月でしたが、そんな厳しかった夏の暑さも少し弱まり、秋の訪れが待ち遠しい頃となりました。大自然の営みに沿いながら、日々の生活に感謝して過ごしていけられたらと思います。

さて、先月号(209号)の【今更聞けないお盆の作法】は、皆さまから「 became になった」・「他にも知りたい」等という様なお言葉を多く頂戴いたしました。また、204号(3月号)【今更聞けない仏事の話】も反響をいただいております。そこで今号では、今更聞けない仏事(2)として、仏事に関するご説明をさせていただきます。それでは、よろしく願い申し上げます。

### Q・お仏壇について

A・お仏壇の「壇(だん)」という漢字ですが、今は多くのお仏壇が木製であるにもかかわらず、木偏(きへん)の「檀」ではなく「土偏(つちへん)の「壇」が用いられています。これは仏様を安置するところが、古くは土を盛り上げてつくった祭壇であったことに由来します。

お仏壇で大切なことは、その中心が御

本尊(ごほんぞん)であるという点です。

御本尊とは、日蓮宗であれば大曼荼羅御本尊(だいまんだらごほんぞん)を安置するところが基本となります。多くのご家庭ではその御本尊の前に、尊崇の対象として宗祖日蓮大聖人のご尊像(そんぞう)をお祀(まつ)りされていることと思います。お位牌壇(いはいだん)ではなく、お仏壇という名の通り、お仏壇は御仏の世界を表現し、その世界に故人を包み込んでいただくものです。ですから、その中心は御位牌ではなく、ご本尊であるということに留意して、常日毎から大切にすることを掛けましょう。

宗祖日蓮大聖人(しゅうそにちれん)のようにんは、釈尊滅後(しゃくそんめつご)の2種があり、その木絵(ぼくえ)にぞうの開眼供養(かいげんくよう)は、法華経を心得たる者によって行われる必要性を示されておられます。その理由を簡潔に述べると、法華経(ほけきょう)には、有情(うじょう)の心ある生き物(いきもの)の成仏(じふつ)が説かれると同時に、草木等の非情(ひじょう)も示されております。この法華経の教えが示されてこそ、木や紙でしかない大曼荼羅御本尊や仏像が、魂(たま)が宿った生身(しん)の仏様(ぶつさま)と成り得るのです。

新しく御本尊を安置するお仏壇をお祀(まつ)りする時には、菩提寺(ぼだいじ)

住職のご都合を伺った上で、必ず開眼供養(かいげんくよう)を執り行うことをお勧め申し上げます。また同様に、お祀りできなくなった御本尊には、開眼供養(かいげんくよう)が必要となります。

### Q・お位牌について

A・故人の法号(ほうごう)や、あるいは戒名(かいみょう)や、死亡年月日を記してお仏壇にお祀りするものが御位牌(いはい)です。

御位牌は、故人の象徴として仏壇を飾る「ものではなく、先祖さまや亡くなられた方の魂(たま)がそこに宿るものとして、ご本尊と共に供養の対象とされてきました。

お位牌には野位牌(のいはい)と、本位牌(ほんいはい)の2種類があります。

野位牌とは白木造(しらぎづく)りのもので、葬儀から四十九日の間お祀りします。忌明け(きあけ)後は、塗りが施(ほどこ)された本位牌を用いるのが一般的です。

また、1つのお位牌に何枚かの板片(いたへん)を入れ、それぞれに法号を記しておく、くり出し位牌というものもあります。

お位牌を安置する場合、中心のご本尊を隠さないように両側に置きます。このとき置き方は、正面向かって本尊の右側、次に左側、というように年月の古い順に置くのが一般的です。

### Q・日蓮宗の御本尊

A・御本尊(ごほんぞん)とは、仏教を信仰する上で礼拝する対象となる仏様などのことを言います。

日蓮宗では宗祖日蓮大聖人が文字でお書きになられた大曼荼羅御本尊(だいまんだらごほんぞん)とします。皆さまのご家庭のお仏壇では、最上段中央に掲げられた掛け軸が大曼荼羅御本尊です。この大曼荼羅御本尊は、法華経の後半部分、虚空会(こくうえ)のすがたをあらわし、仏様による救済の世界が描かれています。この虚空会においてのお釈迦様は自らの永遠の命をお示しになり、それによって末法の今を生きる私達への救いの道が示されています。

皆様の菩提寺の本堂では、仏像などでお祀りになられていることが多いと思いますが、これは大曼荼羅御本尊の一部を、ご尊像にしてあらわしたものです。

では、ご家庭のお仏壇には、実際にどのような諸仏諸尊(しよぶつしよそん)が勧請(かんじょう)されているのでしょうか。せっかくなので、このままご家庭のお仏壇の前に移動ください。そして御仏壇内の大曼荼羅御本尊を拝みながら、左記の解説を読み進めてみてください。お仏壇の前に移動なされましたか？はい、それでは解説してまいります。

まず中央には、大きく『南無妙法蓮華経』

のお題目が書かれています。

そのお題目の左右には、最上段の向かって左側には**釈迦牟尼仏**（しゃかむにぶつ）お釈迦さまが、右側には**多宝如来**（たほうによらい）が勧請（かんじょう）されております。その外側には、地湧（じゆう）の菩薩の代表である上行（じょうぎょう）・無辺行（むへんぎょう）・浄行（じようぎょう）安立行（あんりゆうぎょう）の**四菩薩**（しぼさつ）が勧請され、次段の左右には、元來釈迦牟尼仏の脇侍（きょうじ）であった**文殊菩薩**（もんじゆぼさつ）智慧の仏さまと**普賢菩薩**（ふげんぼさつ）慈悲の仏さまが勧請されます。この智慧と慈悲をあらわす二菩薩（にぼさつ）は、真実が説かれる以前の菩薩であるとされているため、地湧の菩薩である四菩薩の一段下に位置します。

また、お題目の左右中央部には、行者**擁護の善神**（ぎようじゃおうこのぜんじん）である**鬼子母神**（きしもじん）と**羅刹女**（じゆうらせつによ）が勧請されます。お寺などでは、守護の善神として別にお祀りされることもあります。

また、中央左右に梵字（ぼんじ）であらわされるのが、主語の明王（明王）です。古来より、向かって右が**不動明王**（ぶどうみょうおう）、左が**愛染明王**（あいぜんみょうおう）とされます。更に四隅（よすみ）には、仏界の四方

を守護する**持国天**（じこくてん）・**広目天**（こうもくてん）・**増長天**（ぞうちょうてん）・**毘沙門天**（びしゃもんてん）が勧請されます。

その他多くの諸尊が勧請される**大曼荼羅御本尊**は、亡くなられた方だけではなく、今生きる私達をも照らす**真実の仏様の世界**なのです。このご本尊を私達は大切にお祀りし、大曼荼羅御本尊への信仰を次の世代へ引き継いでいかなければなりません。それは私達に課せられた大きな使命であるとも言えます。皆さま方お一人お一人が、次世代に継承するいうご自覚をお持ちになり、日々のご信仰に益々お励みくださいませう。お祈り申し上げます。

### Q・具足について

**A・具足**（ぐそく）とは、仏様に供養する為に使う仏具で、主に**香炉**（こうろ）お香を供える・**花瓶**（かびん）あるいは「けびよう」とも呼ぶお花を供える・**燭台**（しよくだい）お灯明を供えるの**3つ**をいいます。

この具足の置き方には**三具足**（みつぐそく）と**五具足**（ごそく）の2種類があります。

「**三具足**」は向かって左より**花瓶・香炉・燭台**の順で置きます。「**五具足**」は香炉を中心に内側に燭台・外側に花瓶を置きます。燭台や香炉で三つ足になっているものは、

「1つ足を手前に向けます。」とがった方を仏さまに向けない」と覚えると良いと思います。

### Q・灯明について

**A・お仏壇**でのお勤めの際、私達はロソクを灯し、仏様やご先祖様に明かりを捧げます。最近ではLED（エルイーディー）等を使用した電気式灯明も一般的になりましたが、自然に揺らめくロソクの明かりはどこか懐かしく、心安らぐものがあります。よく仏教では明かりを「**仏の智慧**」に喩（たと）えますが、これは明かりが闇を取り去るように、仏様の**智慧（真理）**は私達の煩惱という闇を取り去るところに由来するそうです。またロソクは、自らの身を削り周囲を明るく照らすことから、自らの身を以て他を利する菩薩行の道を私達に示しているのです。

仏事作法は山のようにあり、まだまだご説明させて頂きたいお話があるのですが、また別の機会ということにさせていただきます。今月号はここまでと致します。【今更聞けない仏事】シリーズは、皆様から寄せられるお声と共に、今後も続けてまいりたいと思います。何か気になっていること、御興味のある事があれば、お気軽にお声掛け頂ければ幸いです。

台掌 副住職 谷川寛敬



十月八日(月) 午後一時より

鬼子母神様の**大祭**がござります

お誘い合わせの上お参り下さい

